

2. 設計方針に基づく新庁舎の姿

基本理念2 ▶ 「協働・交流の拠点」として開かれ、シビックプライドを高めていくような庁舎

■ 基本方針

- ・ 区民の誇りとなり、集う庁舎
- ・ 協働の拠点として開かれ、幅広い世代が交流するなど、賑わいを生む庁舎
- ・ 親しみやすい緑の空間が存在し、居心地のよい庁舎
- ・ 区の歴史・文化を継承し、時代とともに発展していく庁舎
- ・ 周辺のまちづくりと連動し、まちのグレードを高める庁舎

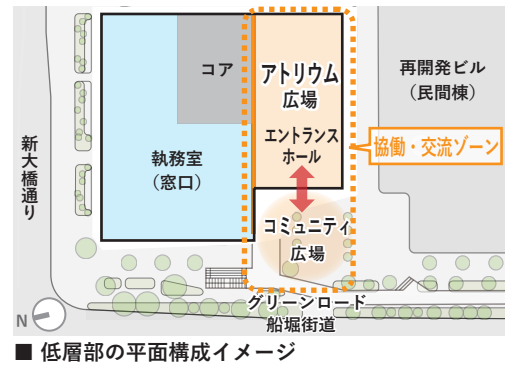
設計方針 2

協働・交流の拠点として、多様な場を持つ庁舎

『基本構想・基本計画』で定める「基本理念2」と基本方針に基づき、区民活動や交流を促し、区民とともに育ってきた「水とみどり」の記憶を継承しながら、区民が誇ることができる庁舎を実現します。

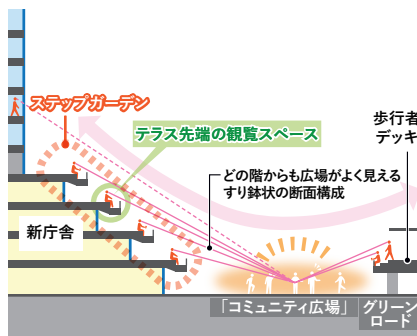
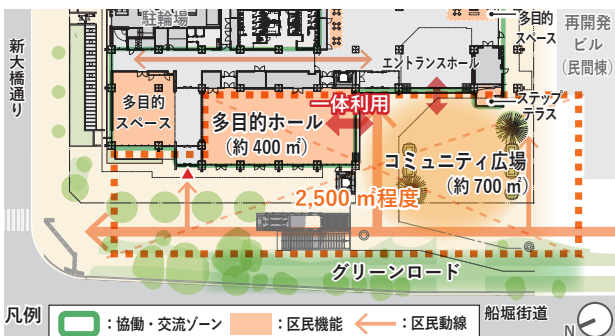
1. 協働・交流ゾーン

まちにひらかれ、区民が集まり賑わいを生む「コミュニティ広場」をグリーンロードと一体的に整備します。更に、庁舎の“顔”として来庁者を迎え、コミュニティ広場と連携した様々な活動を行うことができる「アトリウム広場」を1～4階まで立体的に整備することで、区民の協働・交流の拠点となる庁舎づくりを行います。



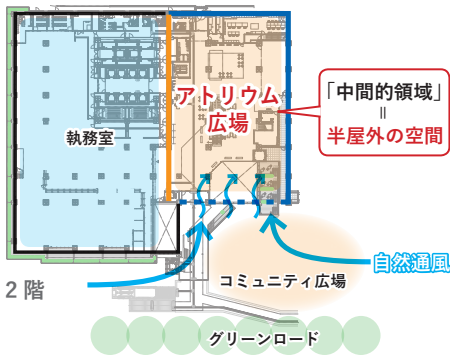
【コミュニティ広場】

- グリーンロードと一体的に整備し、まちにひらかれ、だれもが日常的に集まりやすい賑わいの場を創出します。
- 多目的ホールと隣接させ、全面開放可能な建具の開閉によって、内外をフレキシブルに利用できます。また、グリーンロード、再開発ビル（民間棟）側のスペースを加え、広さ 2,500㎡程度のイベント空間を形成します。
- コミュニティ広場を中心に、立体的な“すり鉢状”のテラス「ステップガーデン」を計画します。広場を見渡せる観覧スペースとして、どこにいても広場の活動や賑わいが感じられる環境を整備します。また、動線に沿って階段やエスカレーター・エレベーターを配置し、グリーンロードと連続したウォークアブル^{※1}な立体構成とします。
^{※1} 「歩きやすい」「居心地がよく歩きたくなる」「歩くのが楽しい」といった意味。国土交通省では、ウォークアブルなまちなかの形成を推進している。
- コミュニティ広場内の緑化には、人力で移動可能な植栽ユニットを採用し、イベント利用時の可変性を高めます。
- イベント備品用の倉庫や電源等の設備を広場近傍に配置します。更に、仮設のユーティリティ設備（配線・配管）を納める床トレンチ^{※2}を予め敷設することで、設営作業の省力化を図り、円滑なイベント運営を支援します。
^{※2} 床下や地中に配管・ケーブルを埋設するために設ける細長い側溝



【アトリウム広場（1～4階）】

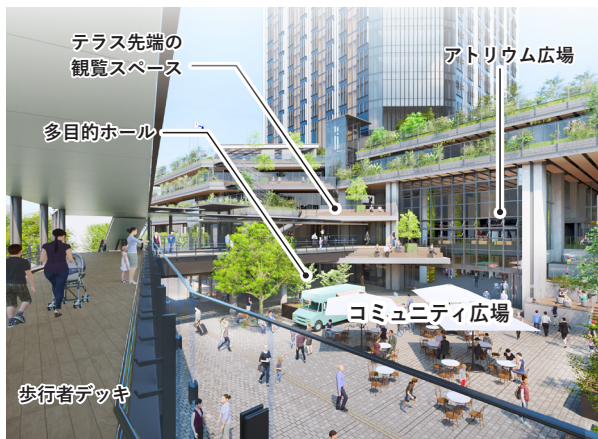
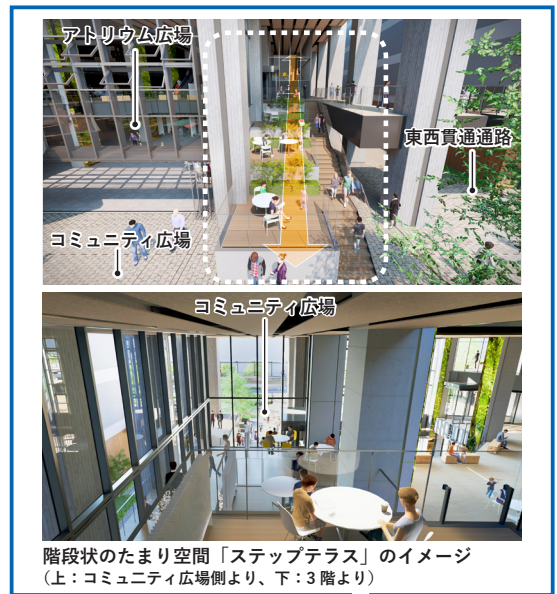
- アトリウム広場を庁舎の“顔”と位置付け、来庁者を迎え入れるシンボリック空間として整備します。更に、江戸川区を象徴する「水とみどり」の要素を取り入れながら、公園のようにひらかれた空間づくりを行います。
- 日本家屋の「縁側」のように、外でも内でもない「中間的領域」の空間とします。風が流れ、光に溢れる「半屋外の空間」として、屋外で使用できる耐久性の高い材料を内部空間にも積極的に導入します。これにより、屋外のコミュニティ広場と連携した多様な活動を行うことができ、区民の協働・交流を促進します。
- 風・光・水などの自然エネルギーを積極的に活用することで、中間期（春・秋）の空調ゼロ運用も可能な計画とします。（※アトリウム広場の環境提案については、設計方針4「2.省エネルギーへの対応と自然エネルギーの活用」を参照）



■ アトリウム広場の平面構成

■ アトリウム広場の断面構成

- 連続した吹抜けの頂部に、新庁舎のシンボルとなる樹木を配した光庭を設けます。コミュニティ広場からも望むことができ、季節の移ろいを感じられる計画とします。
- アトリウム広場は、温かみがあり、来庁者にとって親しみやすい交流空間となるよう、内装の一部を木質化します。
- 執務室（窓口）にはアトリウム広場経由でアクセスする動線計画とし、それぞれの空間をガラスパーティション等で明確に区画します。セキュリティラインを構築しやすくなり、休日等の閉庁時も、区民の憩いの場としてアトリウム広場を開放できます。
- 東西貫通通路に面して、コミュニティ広場からアトリウム広場3階まで繋がる、階段状のたまり空間「ステップテラス」を整備します。内外が立体的に連続した交流の場を形成し、だれもが気軽に立ち寄ることができる、公園のような空間づくりを行います。



■ コミュニティ広場のイメージ



■ アトリウム広場のイメージ

2. 設計方針に基づく新庁舎の姿

設計方針 2

協働・交流の拠点として、多様な場を持つ庁舎

- アトリウム広場が利用者同士の繋がりを広げ、交流を育む地域コミュニティ形成の拠点となるよう、各フロアにはだれもが多目的に使える場を計画します。

□ **多目的ホール**：隣接するコミュニティ広場や多目的スペース（テナント）と連携利用できる、約 400 m² のホール空間。それぞれの境界には全面開放可能な建具を導入し、一体利用も可能。

大型ビジョンも備え、区民活動の発表の場や、パブリックビューイングなどの各種イベント会場など多様な利用形態に対応可能。

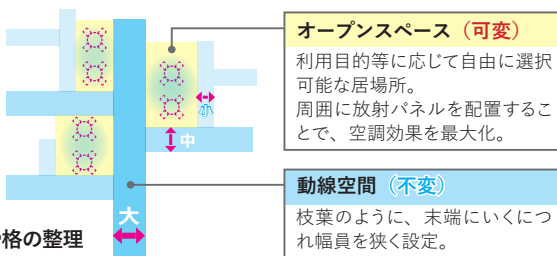
□ **多目的スペース**：ワークショップ、会議、地域団体の活動、展示、スタジオ（ダンス・音楽・演劇）など多目的に利用可能な個室。ガラス越しに、アトリウム広場や東西貫通路から内部のアクティビティを感じることができる設え。

また、テナント（コンビニなど）や、執務関連用途（業務繁忙期の臨時窓口など）での活用も可能。

- 上記のほか、アトリウム広場にはだれもが利用できるオープンスペースを設けます。（団らん、飲食、情報発信・展示、待ち合わせ等）

- 空間骨格を整理し、将来にわたり変化しない“動線空間”と、人の活動に応じて可変する“オープンスペース”を明確化します。空間骨格に従ってテーブル・ソファ・展示什器などの家具や、放射パネルを配置することで、アトリウム広場の可変性を損なうことなく、合理的に運用できる計画とします。

（※放射パネル配置は、設計方針 4「2. 省エネルギーへの対応と自然エネルギーの活用」を参照）



■ 空間骨格の整理

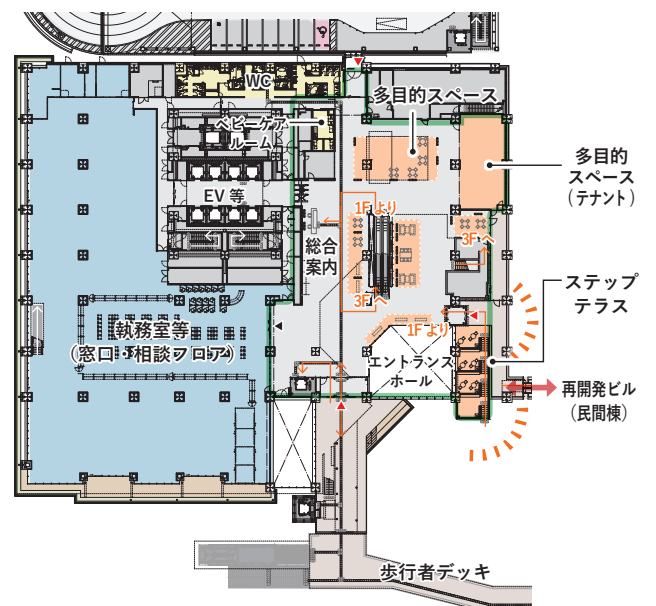
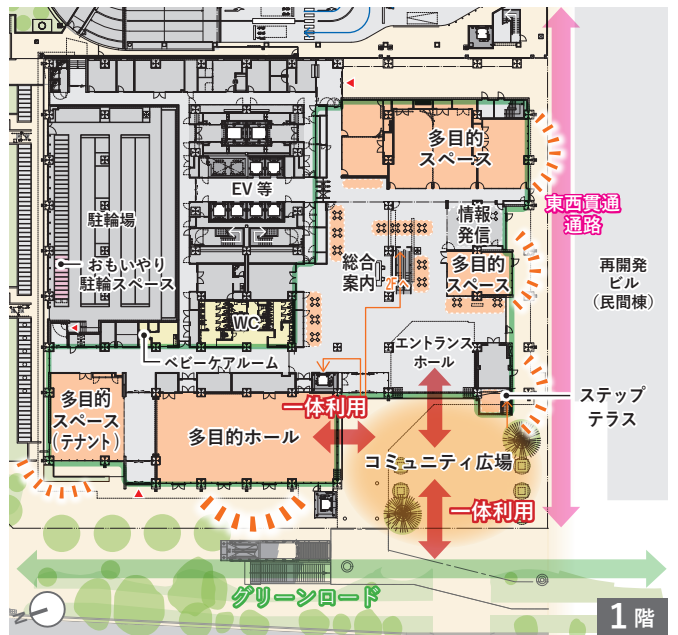
- 多様な使い方に対応できるよう、レイアウトの可変性が高く、組み替えも可能な家具什器を採用します。

【購買・飲食機能】

- テナント（カフェなど）を併設し、待ち時間の待機場所としても利用できるよう計画します。
- テナント（コンビニなど）、自動販売機や給水器などのユーティリティ設備は、アトリウム広場利用時間帯にだれもが利用できるよう計画します。



■ 多目的ホールのイメージ

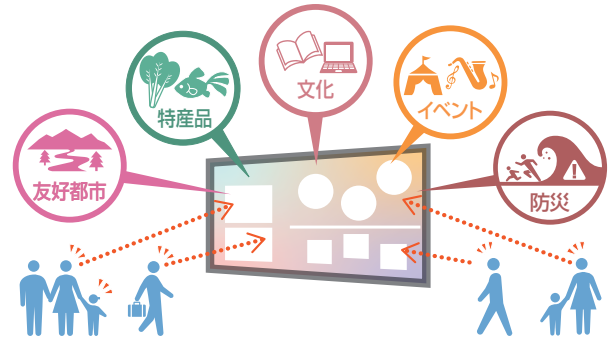


凡例		
▼	主出入口	協働・交流ゾーン
■	区民機能	WC、ベビーケアルーム
■	設備機能等	行政機能
■	その他	EV、階段等
■	区民機能	区民機能 (オープンスペース)

■ アトリウム広場の平面イメージ（上：1階、下：2階）

【情報発信・情報公開】

- 区の歴史、魅力ある区の伝統・文化、特産品、区内産業、友好都市等の情報、催事や区民活動など、様々な情報を発信できるギャラリーやデジタルサイネージを主動線に面して配置します。
また、災害情報の発信など日常時、災害時問わず活用できる計画とします。
- 情報発信スペースやデジタルサイネージの新設・変更に対応するため、共用部の電源、通信、照明計画の柔軟性を確保します。
- 1階及び2階には、区政やまちづくりの情報等を参照でき、学習や研究にも役立つ機能や展示等を配置します。



■ 区民ギャラリーやデジタルサイネージ



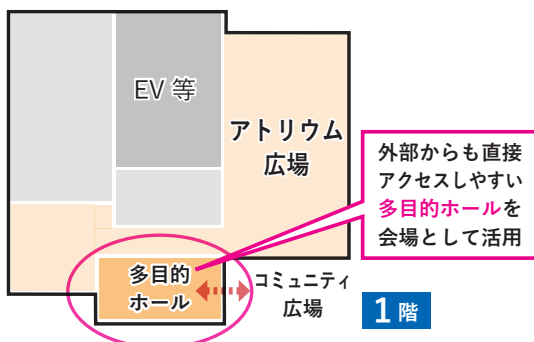
■ アトリウム広場のイメージ (デジタルサイネージ・大型ビジョン)

【様々な利用形態への対応】

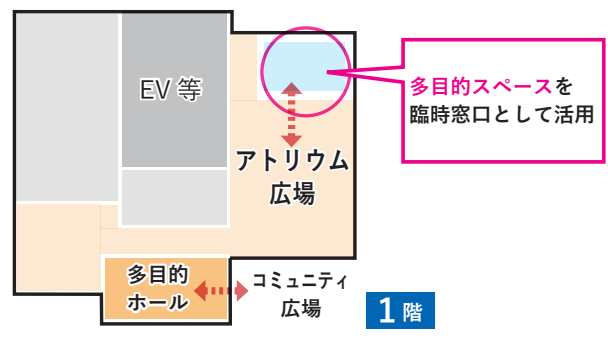
- アトリウム広場は、期日前投票や臨時窓口等の行政サービス、休日等の閉庁時の区民開放など、様々な利用形態を想定した施設整備を行います。

- 活用例 -

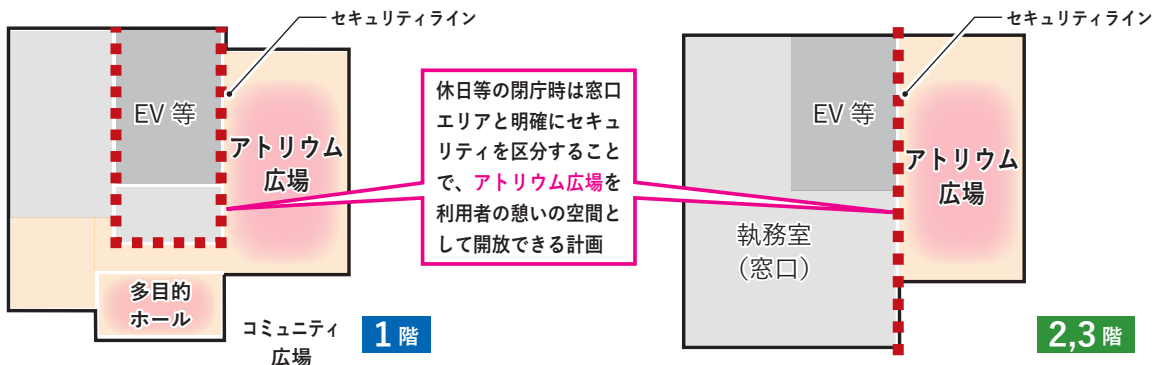
【期日前投票】



【臨時窓口】(保育園申込、住民税申告等)



【休日等の閉庁時】



2. まちづくり機能

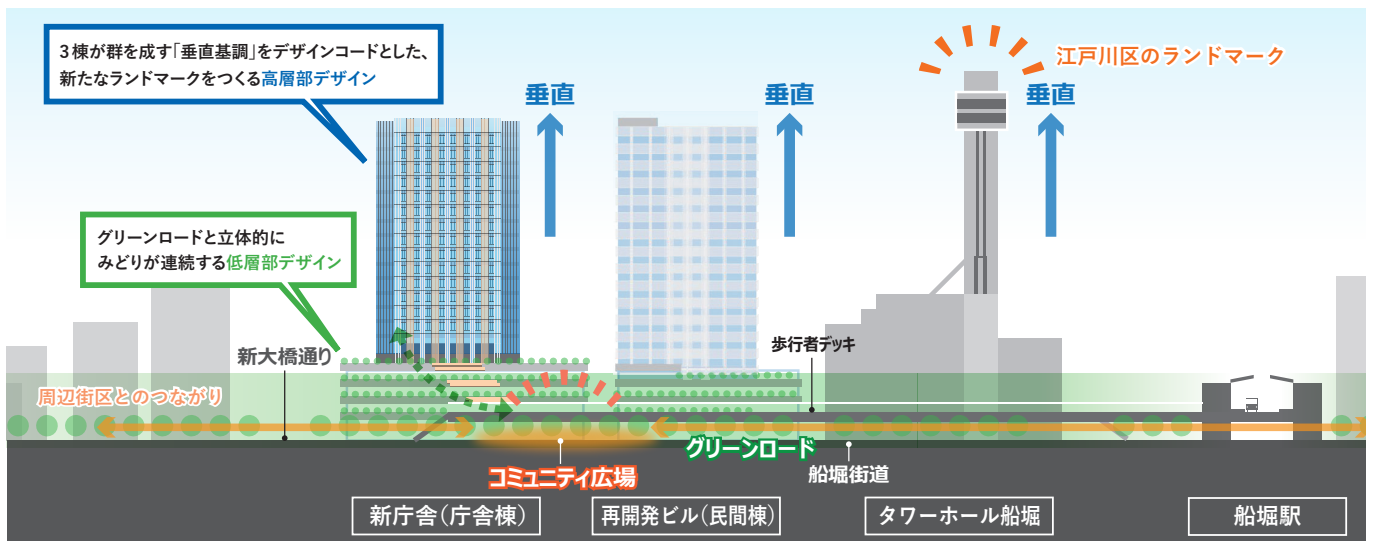
「水とみどり」の江戸川区を体現するとともに、周辺の都市景観とも調和した、これからの新しいまちづくりを牽引する庁舎づくりを行います。

【都市景観と調和する外観デザイン】

- 計画地周辺はタワーホール船堀をランドマークとした、都市のスカイラインが形成されています。ここに新庁舎が加わることで、船堀地区のランドマーク性が更に高まります。
- 新庁舎のデザインはタワーホール船堀と同様に「裏表のない、どの視点場からも正面性を感じ取れるデザイン」とします。

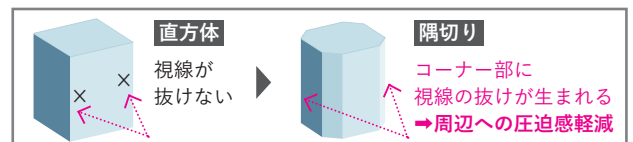


■ 船堀らしい都市のスカイライン（南西荒川より遠景）



■ 船堀街道に面した西側立面 - 3棟が群を成す新たなランドマークのイメージ -

- 高層部は、都市のランドマークになっているタワーホール船堀と調和する「垂直基調」のデザインとします。建物の四隅の角を切り取ることで、周囲への圧迫感やボリューム感を抑えるとともに、ビル風の軽減を図ることで、周辺環境へ配慮します。
- 建物の剛性を高める耐震木パネル（CLT^{※1}）や、日射を制御する縦フィンを意匠的に見せるデザインとします。木質の表情や、リズムカルな垂直ラインを創り出し、シンプルなデザインの中に豊かな表情を与えます。
※1 CLT：木材のひき板（ラミナ）を繊維が直交するように並べて接着した木質パネル材
- 低層部は、豊かなみどりでまちをつなぐ「水平基調」のデザインとします。グリーンロードから低層階屋上までみどりがつながるテラス空間を設け、都市の中心に立体的なみどりの景観を創出します。



■ 外観デザインの考え方

2. 設計方針に基づく新庁舎の姿

設計方針 2

協働・交流の拠点として、多様な場を持つ庁舎

→ : 来庁者動線

屋上緑化

グリーンロードの植栽や低層部のテラス植栽とともに、みどり豊かな都市景観を形成。ステップガーデンと一体的に利用でき、公園のような、みどりに囲まれた憩いの場を創出

機械関連諸室

立体駐車場

発電機室

ステップガーデン (東屋)

屋上のオープンスペースに屋根を架け(東屋)、天候に左右されない空間を創出。屋根にはガラス建材一体型の太陽電池を採用し、創エネを実現

5階

・機械室等

執務室 (保健所)

ステップガーデン

だれもが利用できる憩いの場。2階デッキから屋外階段を介してアプローチ可能。コミュニティ広場に面した観覧デッキからは、広場の活動を一望できる

4階

・執務室 (保健所等)

保健所フロア

執務室 (窓口)

アトリウム広場とはガラスパーティションで区画することで、見通しと空間の連続性を確保しながら、執務室の温熱環境、音環境、セキュリティを適切に保つ

ステップガーデン

保健所

立体駐車場

光庭

3階

・執務室
・アトリウム広場

窓口フロア

コミュニケーション階段

職員同士の連携向上やコミュニケーション活性化に寄与

執務室 (窓口)

アトリウム広場

立体駐車場

アトリウム広場

多目的スペース (テナント)

2階

・執務室
・多目的スペース
・アトリウム広場

窓口フロア

歩行者デッキ

水害時は栈橋となり、屋外階段をボートの船着き場として活用できる

駐輪場

エスカレータ

EV (1-2F)

EV (1-5F)

EV (1-21F)

非常用EV

立駐EV (1-5F)

ステップテラス

エスカレータ

ロータリー

アトリウム広場

だれもが利用できるオープンスペース。利用者や用途に応じて自由に選択可能な居場所を提供

多目的スペース (テナント)

多目的スペース

多目的ホール

民間棟

コミュニティ広場

グリーンロードと一体となった、まちに開かれた広場空間

エントランスホール
グリーンロード

1階

・エントランスホール
・多目的ホール
・多目的スペース
・アトリウム広場、駐輪場



未来を見据えたグリーンロードのリニューアル

- ウォーカブルなまちづくりを目指し、まちにひらかれた、賑わい・交流を生み出すグリーンロード整備を行います。みどり豊かな風景を継承しながら、足元空間のリニューアルを行うことで、安全で快適な歩行者空間をつくります。
- リニューアル整備は既存樹を活かしながら行います。木々が生き茂り、やや暗い印象のある足元空間は、視線や動線が自然に抜けるよう低木・地被植物やその基盤を刷新します。また、高木による緑陰空間の連なりを創出することで、夏季の暑さの緩和に資する植栽計画とします。
- 歩行者の安全性に配慮し、歩行者動線と自転車動線の分離を図るため、自転車走行空間を計画します。
- 荒川や江戸川などの豊かな親水空間に恵まれた江戸川区の「水の記憶・水の流れ」をモチーフに、空間・舗装のデザインを行います。
- コミュニティ広場やグリーンロードには、車椅子等の走行時の振動を抑制する舗装材を採用し、だれもが利用しやすい歩行者空間を創出します。



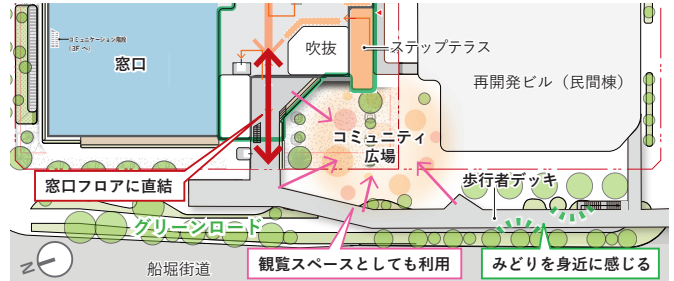
■ 現状のグリーンロードの姿



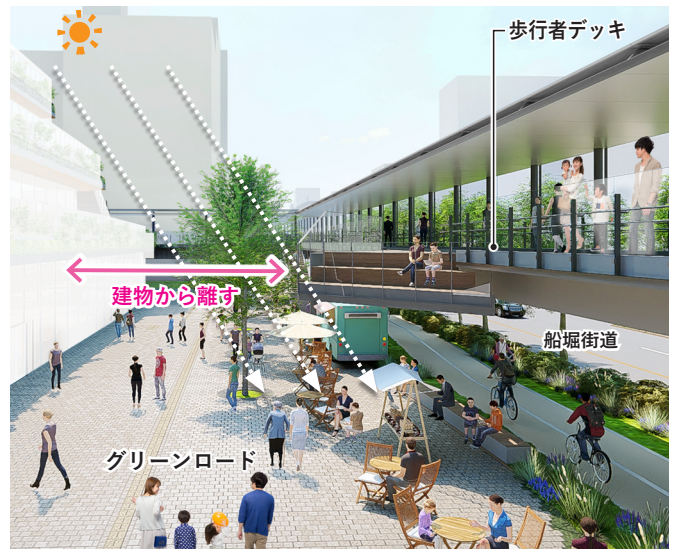
■ 歩行者動線と『たまり空間』のイメージ

賑わい・交流を生み出すグリーンロード

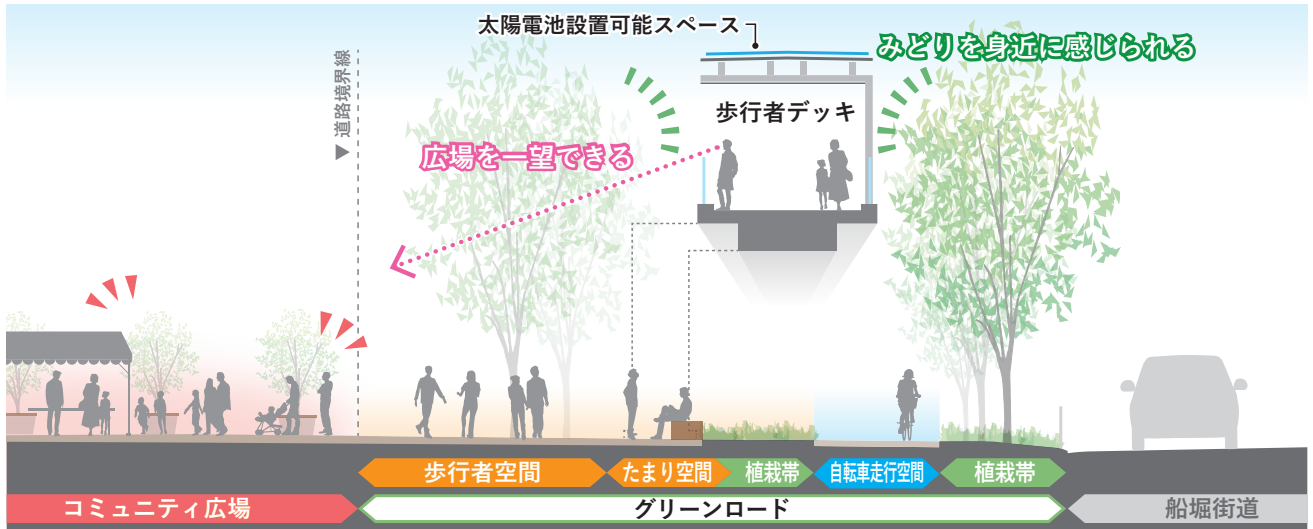
- グリーンロードはコミュニティ広場と一体的な利用が可能な設えとし、まちにひらかれられもが日常的に集まりやすい、協働・交流の場となるよう整備します。
- 歩行者デッキの観覧スペースや庁舎のテラスから、グリーンロードやコミュニティ広場など地上の賑わいを感じられる一体的な空間づくりを行います。
- 地上部の視線の抜けや豊かな『たまり空間』（人の居場所、交流・憩いの場）を確保します。たまり空間には、「水の流れ」をモチーフとした緩やかな形状のベンチを配置します。だれもが自由に利用でき、日常の休憩・待ち合わせだけでなく、イベント時の交流の場としても利用できます。
- グリーンロードや建物の足元周りが明るい空間になるよう、歩行者デッキは新庁舎や再開発ビル（民間棟）からできるだけ離して配置し、足元まで自然光が入りやすい構成とします。



■ デッキレベル（2F）配置イメージ



■ 明るい足元空間のイメージ



■ グリーンロード（歩行者デッキ）横断イメージ